

## **Ⅲ 各農業改良普及センターの 重点活動と一般活動の紹介**

---

## ぶどう産地の育成 [重点活動]

**対象** 生食用・醸造用ぶどう栽培者

管内では丸森町等でシャインマスカット等の大粒ぶどうが栽培され、直売所を中心に販売し好評を得ている。最近では水稻の育苗ハウスや野菜等のパイプハウス等を利用した栽培が徐々に増える傾向にある。

また、近年関心が高まっている醸造用ぶどうについては、蔵王町、七ヶ宿町、村田町、川崎町で栽培が始まり、一部は場では令和3年秋に収穫予定であり、地域内外から注目が集まっている。

普及センターでは、栽培研修会や先進地視察研修等を開催することで、技術向上や生産者相互の交流を支援し、県内一の果樹産地の維持と発展に努めている。



醸造用ぶどうせん定講習会

## 新規就農希望者等の確保・育成・定着支援 [重点活動]

**対象** 管内新規就農希望者、新規就農者

仙南地域2市7町では、各市町が新規就農に係るサポートチームを設置し、新規就農相談者の希望内容について関係機関で情報共有を図るとともに営農や資金計画の作成について連携して対応してきた。

特に定着支援では、近年、肉用牛（繁殖）経営に取り組む管内の新規就農者が増加していることから、繁殖牛管理に係る専門的な知識・技術の習得を促し、PDCAサイクルによる経営管理を学ぶ場を設け、新規就農者等若手農業者の育成を図った。



若手農業者（繁殖牛）経営講座を開設

## 地域農業の維持・再生に向けた土地利用型法人の設立と育成 [重点活動]

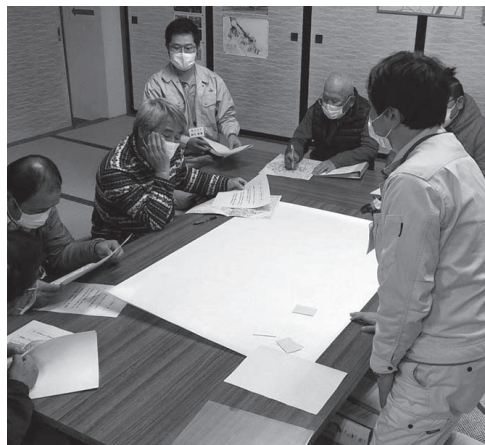
**対象** 土地利用型法人、農地整備事業計画地区の実行委員会等

仙南地域では「人・農地プラン」の実質化や農地整備事業の実施に伴い、土地利用型の農業法人を設立して農地を集約しようとする動きが加速している。

普及センターは市町等の関係機関とともに、法人設立の検討を行う地区の話し合いに加わり、組織の形態や運営方法等について助言・指導を行ってきた。

協議が進み準備が整った組織に対しては、農業経営相談所と連携して専門家派遣による税務や労務管理等の指導を行った。その結果、角田市尾袋川東地区で「株式会社飛躍Show」（令和3年1月設立）、柴田町中名生地区では「農事組合法人桜花爛漫」（令和3年2月設立）が設立された。

今後は設立間もない農業法人の経営安定化や新たに担い手法人を設立しようとする他地区の取組を引き続き支援する。



法人設立のワークショップを実施中

## 果樹産地における担い手育成に向けて

**対 象** りんご若手生産者（5戸）

果樹生産が盛んな仙南地域では、りんごが管内果樹で第2位の販売額を占めている。しかし、後継者不足から生産量は減少傾向にあり、後継者同士の技術交流の場も少なくなっている。そこで、管内に点在する白石市、蔵王町、大河原町、丸森町のりんご若手生産者を対象に、栽培技術の習得及び技術交流を目的として、摘果講習会、福島県への先進地視察研修、亘理地域の若手生産者との技術交流会等を開催した。

参加した生産者は、栽培技術の向上だけでなく経営管理についても認識を深めたほか、研修会等の継続を要望する意見が出されるなど、生産意欲が高揚しており、今後の活動が期待されている。



りんごの摘果講習会

## 新型コロナウイルスの経営への影響軽減を支援

**対 象** 対象 大河原管内農業者

新型コロナウイルス感染症拡大の防止のため、外出自粛や飲食店の時短営業などにより、農産物の消費も大きく影響を受け、農業経営にも影響を及ぼした。

県では農業者の不安解消を図るため、新型コロナウイルスに関する相談窓口を設置し、当事務所でも、農業者が利用できる補助金である経営継続補助金や高収益作物次期作支援交付金の活用、制度資金等融資など、62件（令和3年2月15日現在）の相談に対応した。

また、農業者が受けられる補助金等の支援について、管内の市町やJAみやぎ仙南の協力を得て、補助金等の情報をまとめた資料や普及センターだよりを、認定農業者等に送付し、周知を図った。

6月には、管内74の農業法人を対象に影響調査を実施し、42%が何らかの影響を受けていることを把握し、その後の情報提供等支援活動に活用した。

さらに、今回、消費が大きく影響を受けた品目（牛肉（3回）、花き（3回）、味噌（1回））について、合同庁舎に勤務する職員に斡旋・販売することで、生産者の支援を行った。

需要が減少した花きについては、公共施設に県産花きを展示する取組の一環として合同庁舎の1階に、トルコギキョウやストック、ばらなどの県産花きの展示とそれに合わせた花の特徴などを記した資料やアレンジ提案を4回行い、花きの消費拡大に向けた支援を実施した。



消費拡大に向け、県産花きを紹介

## いちごの生産安定支援 [重点活動]

**対象** いちご生産者

普及センターでは亘理町・山元町のいちご生産者を対象に、戸別巡回や栽培講習会を通して、収量及び品質の向上を支援している。

アグリテックのひとつである、作物の生育に合わせて栽培施設内の環境を最適化する「環境制御技術」の普及のため、管内モデル生産者2名を対象とした活動を展開した。外部講師によるコンサルティングの導入やセミナーの開催等により、モデル生産者では、施設内の温湿度や二酸化炭素濃度、かん水等を組み合わせた管理ができるようになった。この内1戸では、収量が前年同期より1t/10a増収した。



環境制御技術の現地指導の様子

## 大規模露地野菜の安定生産に向けて [重点活動]

**対象** やまもとファームみらい野等

管内の沿岸地域では、農地整備後のほ場にたまねぎ、ねぎ、かんしょ、にんじん、だいこん等が園芸法人の機械化体系により大規模に作付けされている。

普及センターでは、たまねぎの効率的な機械収穫のため、定植後と春先の除草剤散布のタイミングと適切な除草剤選択に関する情報提供を行なった。法人側も除草剤では枯れない大きな雑草を抜くなど、丁寧な管理を行なうようになったことから、今年の収穫期には雑草がほとんどない状態に仕上り、機械収穫の効率が格段に向上し、1日あたりの収穫量が前年の1.6倍となった。収穫終了後に行なわれた次期作検討には、反省点を出し合うなど、継続した取組ができるようになっている。

今後も法人が関連する事業の推進も含め支援していく。



適切な除草により機械収穫の効率が向上したたまねぎのほ場

## きゅうりの環境制御技術の導入と定着に向けて

**対象** 岩沼ハウス組合（7戸）

岩沼ハウス組合7戸のうち2戸は、3年前より炭酸ガス発生装置を導入し、きゅうりの光合成能力を高めて収量向上を図る環境制御技術に取り組んでいる。普及センターでは、ハウス内の温湿度や二酸化炭素濃度を測定できる環境モニタリング機器を設置し、データを週毎にまとめた資料を使って栽培支援を行った。

また、現地検討会や栽培講習会では、環境制御技術の栽培管理や導入事例等について情報提供を行い、生産者の関心や理解を深めた。

その結果、新たに組合員4戸が炭酸ガス発生装置を導入し、環境制御技術に取り組み始めた。



きゅうり現地検討会の様子

## カーネーションの生産技術の改善による生産性向上 [重点活動]

**対象** 名取市花卉生産組合 JAみやぎ巨理花卉部会カーネーション班

巨理地域のカーネーション産地を対象に、冬季の燃油コストの削減をねらいとした「EOD-heating（日没後短時間昇温処理）」や、薬剤抵抗性の発達等で効果的な防除が課題となっている主要害虫の「天敵活用等によるIPM防除」の導入支援を行っている。

試験研究機関の協力を得ながら、現地農家での実証と検討を進め、EOD-heatingについては産地栽培品種への適応性を考慮した設定温度の検討、IPM防除はハダニの天敵に加えて赤色防虫ネットの活用により、技術効果を高めることができた。今後とも産地の生産性向上のための技術支援を行っていく。



EOD-heating実証は巡回の様子

## 専門家派遣による若手女性農業者への起業活動支援

**対象** 山元町 やまうち農園株式会社

若手女性農業者の起業活動や6次産業化支援の一環として、女性農業者活躍支援事業を活用し、山元町のいちじく生産者である「やまうち農園株式会社」へ、新商品開発のための専門家派遣を2回実施した。

今回の専門家派遣では、株式会社仙台国際ホテル 土屋貴幸シェフ パティシエを講師に招き、いちじくを使ったスイーツを完成することを目標とした。

派遣では、新商品（パウンドケーキ、タルト、ジェラート）の品質向上や労力省力化に向けた作業工程等について、専門家より具体的なアドバイスをいただきながら実習を行った。

やまうち農園株式会社では、今回の専門家派遣を通じて新商品が完成した。これらは、令和3年3月に仙台市内の百貨店や山元町内の直売所等等で新商品の販売を開始している。



いちじく商品開発の専門家派遣

## 就農希望者、新規就農者への支援

**対象** 新規就農者・就農希望者等

新規就農者の計画の早期達成に向けて、農業次世代人材投資事業（経営開始型）の交付を受けている対象者等に対し、巡回による技術・経営指導に加えて、集合による栽培技術や効率のよい作業環境に関する研修会を開催した。

また、就農希望者には、関係機関と連携して対応し、技術習得のための研修や就農にあたっての各種助成制度などについての情報提供や、就農計画の作成支援を行った。



研修会の様子